

---

# 黒川俊雄の主な論文

---

編集：「現代労働組合研究会」  
(2012.05.15)

---

## 「黒川俊雄の主な論文」編集にあたって

黒川俊雄の主な論文は、以下の検索システムを活用した。

「CiNii Articles - 日本の論文をさがす」は、学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなど、学術論文情報を検索の対象とする論文データベース・サービスです。

国立情報学研究所 〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2  
<http://ci.nii.ac.jp/>

### 1990年～2000年代

もう一つのグローバル化をめざして——ナショナル・ミニマムの法制化を、経済  
(127)、160—175、2006—04

書評 富沢賢治・中川雄一郎・柳沢敏勝編著『労働者協同組合の新地平』、銀行労働調査時報 (576)、18—21、1997—09

富沢賢治・中川雄一郎・柳沢敏勝編著『労働者協同組合の新地平』、明治大学社会科学研究所紀要 35 (2)、333—337、1997—03

黒川俊雄教授退任記念号、桜美林エコノミックス (31)、p1—111、1994—03

日本における労働者協同組合——過去・現在・未来（世界と日本における協同組合の課題——ICA 東京大会をどう迎えるか〈特集〉）、協同組合経営研究月報 (467)、p38—45、1992—08

協同組合運動の現代的課題と意義、桜美林エコノミックス (27)、p25—42、1991—12

新しい賃金闘争への提言（91年春闘と生活・職場問題〈特集〉）、賃金と社会保障 (1051)、p12—16、1991—02—10

政府・財界の90年代労働力政策（91 国民春闘——日本資本主義の現段階＜特集＞）、労働運動（305）、p70—81、1991—02  
豊かさゆとり欠如の根本原因を隠蔽——「労働白書」批判、労働運動（301）、  
p170—177、1990—11

## 1980年代

社会政策のこれからの課題（産業構造転換期と社会政策＜特集＞）、賃金と社会保障（1018）、p4—17、1989—09—25  
労働運動からみた労働者協同組合——合理化反対闘争の教訓から（産業空洞化への挑戦＜特集＞）——（北海道での産業空洞化への挑戦）、賃金と社会保障（998）、p12—18、1988—11—25  
「高齢化社会論」の欺瞞を斬る、労働運動（277）、p206—217、1988—11  
雇用保障と地域共同体変革の展望（高齢化社会と地域共同体づくり＜特集＞）——（雇用保障と地域共同体再編の諸条件——山口県光市の調査研究）、賃金と社会保障（986）、p58—59、1988—05—25  
雇用保障と地域共同体の分析視角（高齢化社会と地域共同体づくり＜特集＞）——（雇用保障と地域共同体再編の諸条件——山口県光市の調査研究）、賃金と社会保障（986）、p4—8、1988—05—25  
「構造調整」めぐる自己弁護の破綻——1987年版『労働白書』批判、労働運動（264）、p132—137、1987—11  
賃金闘争の原点にかえり活性化を（87 春闘中間総括）、労働運動（260）、p157—162、1987—07  
独占の21世紀戦略と労働法制（労基法改悪を許すな＜特集＞）、労働運動（255）、p26—33、1987—02  
右翼再編の現段階と階級的結集の展望（日本の労働組合86年版）、座談会 岩井

- 
- 章、黒川 俊雄、春山明、労働運動 (251)、p18—38、1986—10
- 雇用と時短で矛盾はらむ「労働白書」、労働運動 (250)、p126—133、1986—09
- 円高下の日本経済と内需拡大 (86 春闘めぐる情勢とたたかい<特集>)、労働運動 (245)、p36—45、1986—04
- 今、なぜ労働者協同組合か——今日の労働組合運動と労働者協同組合 (労働者協同組合と現代<特集>) —— (労働者協同組合と日本)、賃金と社会保障 (934)、p12—19、1986—03—25
- 労働組合運動と労働者協同組合、三田学会雑誌 78 (6)、p649—667、1986—02
- 今日の労働組合運動の課題をめぐって——右翼の再編の新局面と統一労組懇の役割、座談会 黒川 俊雄 [他]、前衛 (528)、p132—161、1985—12
- ME 化による雇用不安を過小評価——「昭和 60 年版労働白書」批判、労働運動 (238)、p109—114、1985—09
- 産業構造の変化と政策対応 (反動化する労働政策との闘い<特集>) —— (転機に立つ労働政策の歴史的位位置<シンポジウム>)、労働運動 (237)、p30—32、1985—08
- 危機の構造的側面から眼そらす現状分析——八四年度『労働白書』批判、労働運動 (226)、p39—45、1984—09
- 現代の ME 革命と労働組織——電機労連の調査を利用して、三田学会雑誌 77 (2)、p125—147、1984—06
- 独占資本追隨の産業政策——「経営参加の実際と産業政策」批判 (富士政治大学教科書批判<特集>) —— (「労働運動の基礎コース」批判)、労働運動 (222)、p146—157、1984—05
- 深刻化する失業・雇用問題——「第二次減量経営」「第二次雇用調整」の反動性 (国民生活防衛への対決軸<特集>)、前衛 (503)、p58—68、1984—02
- 失業増大を楽観し、行政責任を回避——「昭和五七年労働経済の分析」(「労働白書」) 批判、労働運動 (213)、p114—119、1983—09

- 現代のME革命とマルクスの労働過程論（カール・マルクス——没後100年〈特集〉）、三田学会雑誌 76（3）、p472—487、1983—08
- 保護ぬき雇用平等法のもたらすもの——日本資本主義の構造的危機との関連で（婦人労働問題研究—4—私達のため雇用平等法〈特集〉）、賃金と社会保障（869）、p13—17、1983—07—10
- 大幅賃上げの国民的正当性（賃金・雇用と日本経済〈シンポジウム〉）、労働運動（208）、p48—56、1983—04
- 新入社員の権利擁護のために（八洲・初任給裁判シンポジウム〈特集〉）、賃金と社会保障（860）、p14—17、1983—02—25
- 人勸「凍結」が八三春闘にもたらすもの（人事院勧告の「凍結」〈特集〉）、季刊労働法（126）、p100—104、1982—12
- 臨調「行革」・人勸凍結路線とたたかうための提言（付資料）（83年春闘読本）、賃金と社会保障（854）、p92—98、1982—11—25
- 右翼的「労働戦線統一」と臨調「行革」（日本の岐路と軍拡・「行革」〈特集〉）、季刊科学と思想（46）、p222—233、1982—10
- 大量失業時代と独占の労働政策——「昭和五七年版労働白書」、労働運動（201）、p56—63、1982—09
- 貧困化論——その理論的分析、賃金と社会保障（840）、p42—51、1982—04—25
- 日経連「労働問題研究委員会報告」批判、労働運動（195）、p175—186、1982—03
- 山本潔著「自動車産業の労資関係」、三田学会雑誌 75（1）、p112—114、1982—02
- 新たな「合理化」と労資一体化路線、前衛（475）、p122—131、1982—02
- 職場専制支配の現段階と闘争方向（職場に憲法の確立を〈特集〉）、労働運動（185）、p69—77、1981—05
- 経営側の八三春闘対策——日経連の賃金政策を批判する（81春闘読本——「管理春闘」を打破するために）——（81春闘をとりまく情勢の特徴）、月刊労働問題（284）、p42—47、1981—02

---

政治経済情勢と独占の八〇年代戦略、労働運動 (181)、p137—144、1981—01  
経済整合性と不整合性 (81 年春闘読本——国民春闘編) —— (81 年春闘情勢をめぐって)、賃金と社会保障 (808)、p30—34、1980—12—25  
労働運動右傾化の促進で独占の利益保障を提唱——「昭和五十五年版労働白書」  
批判、労働運動 (178)、p96—102、1980—10  
労働者の状態悪化と闘争条件の成熟 (貧困化とのたたかい<特集>)、座談会 黒  
川俊雄 [他]、労働運動 (174)、p88—102、1980—06  
独占の八〇年代戦略と民主的規制 (80 春闘・独占と対決する戦線の構築へ<特  
集>)、労働運動 (170)、p74—82、1980—02

## 1970年代

ヨーロッパの労働者と日本の労働者 (80 年春闘読本) —— (プロローグ 今日と明日を見つめるために)、賃金と社会保障 (783)、p14—19、1979—12—10  
科学的社会主義を学ぶ—12—「科学的社会主義」——経済学 (青年労働者の基礎講座)、労働運動 (163)、p223—231、1979—07  
科学的社会主義を学ぶ—11—「科学的社会主義」——経済学 (青年労働者の基礎講座)、労働運動 (162)、p224—231、1979—06  
科学的社会主義を学ぶ—10—「科学的社会主義」——経済学 (青年労働者の基礎講座)、労働運動 (161)、p224—231、1979—05  
「構造的危機」下の社会政策 (「構造的危機」下の社会政策)、社会政策学会年報 (23)、p3—15、1979—05  
科学的社会主義を学ぶ—9—科学的社会主義—3—経済学 (青年労働者の基礎講座)、労働運動 (160)、p225—231、1979—04  
男女平等と世界の労働運動 (男女平等の実現めざして<特集>)、労働運動 (159)、p93—102、1979—03

- 科学的社会主義を学ぶ—8—科学的社会主義——経済学、労働運動 (159)、p224—231、1979—03
- 科学的社会主義を学ぶ—7—科学的社会主義——経済学 (青年労働者の基礎講座)、労働運動 (158)、p234—239、1979—02
- 科学的社会主義を学ぶ—6—科学的社会主義——経済学 (青年労働者の基礎講座)、労働運動 (157)、p224—231、1979—01
- 七九年春闘をめぐる経済情勢の現局面 (79年春闘読本<特集>) —— (七九年国民春闘情勢と基本的観点)、賃金と社会保障 (760)、p23—28、1978—12—25
- 階級構成の変化と労働運動の課題 (現代革命と労働問題<特集>)、現代と思想 (34)、p44—59、1978—12
- 制度的要求と労働組合の課題 (国民生活擁護と制度的要求<職場でみんなと考える今月のテーマ>)、労働運動 (153)、p18—25、1978—09
- 大原慧著「幸徳秋水の思想と大逆事件」、東京経学会誌 (108)、p183—185、1978—09
- 時短闘争の今日的意義と労働組合運動の課題 (社会問題化した時短・週休2日制)、賃金と社会保障 (752)、p6—9、1978—08—25
- 円高不況下で増益つづける大企業 (経済情勢分析・夏季)、労働運動 (150)、p124—130、1978—06
- 「戦後体制」と「生産性運動」の展開 (戦後体制と労資関係)、社会政策学会年報 (22)、p59—90、1978
- 七八年国民春闘と賃金闘争 (七八年春闘読本<特集>) —— (七八年国民春闘の基本課題と闘争)、賃金と社会保障 (736)、p57—61、1977—12—25
- 踏みしめねばならない五つのこと——労働者参加問題に一言す (現代の労働運動と"参加的規制") —— (労働者の参加問題——私も一言)、労働法律旬報 (938)、p28—29、1977—10—25
- 現代フランスにおける賃金問題——賃金要求にかんする CGT の政策 (全文) (「プ

---

ープル」1977年5月上旬号) (現代フランスの賃金問題と日本——先進資本主義国における経済危機下の賃金闘争)、フランス労働総同盟 [著]、坂本 満枝 [訳]、黒川 俊雄 [監修]、賃金と社会保障 (731)、p49—65、1977—10—10

フランス労働組合運動における CGT 新賃金政策の意義 (現代フランスの賃金問題と日本——先進資本主義国における経済危機下の賃金闘争) —— (「CGT 文書」に寄せての問題提起)、賃金と社会保障 (731)、p28—31、1977—10—10

企業主義をどう克服するか (組合大会で問われるいくつかの問題—1—<職場でみんなと考える今月のテーマ>)、労働運動 (140)、p56—63、1977—08

全国一律最賃制闘争の現局面と課題——中央最低賃金審議会中間報告をめぐって (77年国民春闘をどうみるか<特集>)、賃金と社会保障 (723)、p41—44、1977—06—10

現代の婦人労働力政策 (婦人の保護と平等——どう考えるか)、労働法律旬報 (926)、p19—23、1977—04—25

労働組合が婦人労働者の要求をとりあげる意義 (婦人労働者はなにを要求しているか<特集>)、労働運動 (135)、p53—59、1977—03

日本の低賃金の仕組みをかえる全国一律最賃制闘争 (77春闘を勝利しよう<特集>)、労働運動 (134)、p57—66、1977—02

日本経済の動向と賃金問題——構造的危機を打開する道、農業協同組合 23 (2)、p6—12、1977—02

77年春闘と労働組合運動の課題——真の「実質賃金の維持・向上」の理論的把握 (77年春闘読本) —— (77年春闘情勢と労働運動)、賃金と社会保障 (711)、p18—23、1976—12—10

日本経済の現局面と労働組合 (経済情勢分析 (秋季)) (77春闘へ向けて)、労働運動 (132)、p68—76、1976—12

労働運動の現代的課題——管理・専門職労働問題の位置づけについて、労働法律旬報 (910・911)、p4—6、1976—09—10



- 討論（現代の資本主義〈特集〉—2—）——（現代資本主義と階級闘争（シンポジウム））、季刊科学と思想（21）、p52—109、1976—07
- 報告 現代資本主義と労働者階級の地位——現代資本主義における労働者階級の地位（現代の資本主義〈特集〉—2—）——（現代資本主義と階級闘争（シンポジウム））、季刊科学と思想（21）、p10—15、1976—07
- 労働者階級の国民的地位——問題提起への若干の試み（国民的危機打開と労働組合運動〈特集〉）、労働運動（125）、p102—113、1976—05
- 討論（経済危機下ヨーロッパにおける雇用・労働時間闘争の特徴——わが国の雇用闘争の発展のために〈シンポジウム〉）、賃金と社会保障（695）、p17—27、16、1976—04—10
- 討論（現代の資本主義〈特集〉—1—）——（現代資本主義の歴史的地位（シンポジウム））、季刊科学と思想（20）、p629—657、1976—04
- 「春闘方式」の質的転換のために（76年春闘読本）——（76年春闘に寄せて）、賃金と社会保障（687）、p10—11、1975—12—10
- 男女同一労働・同一賃金実現のために——国際的経験に学ぶ（今日の婦人労働をめぐる諸問題〈特集〉）、賃金と社会保障（686）、p6—13、1975—11—25
- 転機にたつ賃金闘争（転機にたつ労働組合運動——第5回「夏の労働学校」誌上公開〈特集〉）——（分科会講義）、労働運動（118）、p44—60、1975—10
- 学習講座・資本論と労働者—14—第7篇第23章（第4節、第5節）第24章（第1～7節）第25章——資本主義的蓄積の一般法則と相対的過剰人口、労働運動（114）、p205—215、1975—06
- 賃金の男女差別徹廃をめざして——75国際婦人年によせて（75年婦人労働読本）、賃金と社会保障（673）、p4—6、1975—05—10
- 学習講座・資本論と労働者—13—第7篇第23章（第1節～第3節）——資本主義的蓄積の一般法則と相対的過剰人口、労働運動（113）、p204—210、1975—05

---

真の"国民生活防衛"とは何か——高度成長下の闘争方式から脱皮せよ(転機に  
立つ国民春闘<特集>)、エコノミスト 53 (13)、p24—29、1975—03—25  
学習構座・資本論と労働者—11—第7篇第21章、22章——資本はこうして誕生  
する、労働運動 (111)、p202—211、1975—03  
全国全産業一律の最低賃金制闘争の課題 (75 国民春闘の課題)、労働運動 (110)、  
p51—60、1975—02  
学習講座・資本論と労働者—10—第6篇第17章～20章 労賃について、労働運動  
(109)、202—210、1975—01  
75年春闘情勢と政府・独占の政策——"危機の進展"と所得政策・雇用攻撃('75  
年春闘読本)——(第1部 75年春闘情勢と労働運動)、賃金と社会保障 (663)、  
22—26、1974—12—10  
所得政策導入の背景とねらい(「所得政策」導入との対決(特集))、労働運動 (108)、  
35—40、1974—12  
いわゆる「労働戦線統一」挫折の経過とその問題点(労働戦線の統一)、社会政策  
学会年報 (18)、41—66、1974—10  
日経連の春闘対策を斬る——「賃金交渉の基礎資料」(74年版)批判(国民的な  
春闘へ(特集))、労働・農民運動 (98)、46—53、1974—03  
新しい貧困化の現状と闘争課題 (第3回夏の労働学校誌上公開)、労働・農民運  
動 (94)、203—219、1973—11  
日経連の春闘対策を批判する (73春闘勝利の課題—2—(特集))、労働・農民運  
動 (85)、74—79、1973—03  
フランスの労働組合の企業内活動(世界の労働者階級)、労働・農民運動 (83)、  
72—78、1973—01  
フランス労働組合運動から学ぶもの、賃金と社会保障 (601)、2—6、1972—05—  
10  
戦後労働行政の歴史と「積極的労働政策」 一下一、黒川 俊雄、内山 昂、銀行労

- 働調査時報 (258)、37—41、1971—07
- 戦後労働行政の歴史と「積極的労働政策」一上一、黒川 俊雄、内山 昂、銀行労働調査時報 (257)、4—9、1971—06
- エコノミア 41、98\*—100、1971—03
- 失業対策問題調査研究会「中間報告」の批判 (今日の失業問題 (特集))、旬刊賃金と社会保障 (553)、22—25、1971—01—05
- 当面の最低賃金制闘争の諸問題 (最賃制闘争の再組織のために (特集))、旬刊賃金と社会保障 (547)、3—8、1970—11—05
- 「積極的労働力政策」と労働運動 (「積極的労働力政策」を斬る (特集))、労働・農民運動 (55)、71—82、1970—10
- 粗雑な歪曲のねらうもの——渡辺多恵子「戦後初期の賃金論」批判について、労働・農民運動 (53)、116—121、1970—08
- 加藤祐治著「日本帝国主義下の労働政策」、三田学会雑誌 63 (7)、82—87、1970—07
- 労働者階級の一構成部分としての自覚を (教職員の労働時間と賃金のあり方 (特集))、教育評論 (245)、38—41、1970—05
- 70年春闘をめぐる情勢の特徴 (70年春闘 (特集))、労働・農民運動 (46)、86—97、1970—01

## 1945年～1960年代

- 70年代の賃金闘争——国家独占資本主義・帝国主義段階の賃金闘争、シンポジウム 黒川 俊雄 [他]、旬刊賃金と社会保障 (500・501)、4—29、1969—07—25
- 現代日本の低賃金と最低賃金制闘争の課題、労働・農民運動 (38)、70—78、1969—05
- 賃金のはなし、黒川 俊雄、草光 実、旬刊賃金と社会保障 (492)、1—12、1969—

---

04—25

報告2 所得政策と労働組合運動（所得政策への反撃（シンポジウム）、労働・農民運動（33）、49—52、1968—12

現段階における政府・独占資本の低賃金政策と賃金闘争の課題、銀行労働調査時報（222）、14—24、1968—10

独占資本の春闘対策（春闘の対決点（特集）、労働・農民運動（24）、10—17、1968—03

社会政策論序説——労働経済論への一批判として、三田学会雑誌 58（10）、1965—10

低賃金構造の再編成と最低賃金制闘争—下—、労働経済旬報（593）、1964—10

低賃金構造の再編成と最低賃金制闘争—上—、労働経済旬報（589）、1964—09

低賃金構造再編の方向——経済白書の誤りをつく、エコノミスト 42（37）、1964—09

現段階における現行最低賃金法、経済評論 13（2）、1964—02

日本資本主義の成立と低賃金基盤の形成、三田学会雑誌 56（6・7）、1963—07

日本の賃金水準、黒川 俊雄 [他]、エコノミスト 41（2）、1963—01

転機に立つ失業対策、三田学会雑誌 55（12）、1962—12

春闘評価と最低賃金制闘争、月刊労働問題（39）、1961—07

いわゆる「年功賃金制度」論、三田学会雑誌 53（7）、1960—10

低賃金構造を克服する闘いの方向、月刊労働問題（30）、1960—10

賃金形態の考え方、労働経済旬報 14（445）、1960—07

賃金問題の討論——黒川俊雄教授をかこんで、労働経済旬報 14（445）、1960—07

「賃金綱領運動」と賃金斗争—5（完）—、月刊労働問題（27）、64—67、1960—08

「賃金綱領運動」と賃金斗争—4—、月刊労働問題（26）、46—51、1960—07

「賃金綱領運動」と賃金斗争—3—、月刊労働問題（25）、1960—06

- 「賃金綱領運動」と賃金斗争—2—、月刊労働問題 (24)、1960—05
- 「賃金綱領運動」と賃金斗争—1—、月刊労働問題 (23)、1960—04
- 現代資本主義と労働者階級——絶対的窮乏化の現代的形態の理解のために、思想 (428)、1960—01
- 同一労働同一賃金要求の中心は男女差撤廃である、月刊総評 (33)、1960—01
- 現段階における合理化の特徴、経済評論 9 (2)、1960—01
- 日本の賃金構造と同一労働・同一賃金斗争の課題、労働調査時報 (367)、1959—10
- 日本の低賃金構造、月刊労働問題 (15)、1959—07
- 特集・「賃金綱領」研究 (座談会)、黒川 俊雄 [他]、労働経済旬報 13 (406)、1959—04
- 男女同一労働同一賃金の原則のための闘い、月刊総評 (24)、1959—01
- 特集・二つの日本——労働、エコノミスト 37 (1)、1959—01
- 最近の政府・資本家陣営の賃金政策、労働調査時報 (332)、1958—10
- 経済学史上における最低賃金制論の形成、三田学会雑誌 51 (11)、1958—10
- 労働運動は"低姿勢"を脱皮しうるか、中央公論 73 (9)、1958—09
- 最低賃金制と最低賃金法案、月刊労働問題 (1)、11—17、1958—06
- 最低賃金制の理論的問題、調研月報 (2)、6—15、1958—05
- 最低賃金制斗争の原則——諸外国の経験に照らして、労働経済旬報 12 (360)、1958—01
- 婦人労働者の賃金問題——差別的賃金をなくすために、月刊総評 (14)、1958—01
- 賃金問題について、月刊総評 (9)、1957—10
- 労働運動と国民の要求、中央公論 72 (11)、84—93、1957—09
- 新中間層の諸問題、思想 (398)、1957—08
- 労働者階級の貧困化について、経済評論 復 6 (6)、29—37、1957—06

---

総評の新しい進路——第7回定期大会をみて、エコノミスト 34 (36)、1956—07  
「同一労働同一賃金」の原則と婦人労働問題、三田学会雑誌 48 (10)、1955—10  
賃金・労働問題についての経済学教科書の意義、経済評論 復4 (9)、1955—09  
賃金・労働問題についての「経済学教科書」の意義、経済評論 復4 (9)、1955—  
09  
日鋼室蘭の労働者の闘い、中央公論 70 (1)、1955—01  
賃金闘争の新段階と賃金論の課題、経済評論 復3 (13)、20—29、1954—12  
戦後失業対策と都市日雇労働者、三田学会雑誌 47 (4)、428—441、1954—04  
古典派の賃銀論、季刊理論経済学 4 (3・4)、199—207、1953—11  
左社に袂別するか？ 総評、塩田庄兵衛、黒川俊雄、改造 34 (11)、63—71、  
1953—09  
現段階における「合理化」攻勢、季刊労働法 3 (2)、131—140、1953—06  
現段階における搾取と抑圧の機構、黒川俊雄、田沼 肇、経済評論 復2 (4)、101  
—109、1953—04  
賃金綱領批判を反駁する、社会主義 (17)、8—13、1952—10  
賃金経営者の意見、総評の意見、林田丁介、黒川俊雄、改造 33 (13)、162—  
169、1952—09  
理論生計費と最低賃金制、労働経済旬報 6 (157)、3—6、1952—05  
社会政策論の前進のために——大河内一男著「独逸社会政策思想史(下)」、森耕  
二郎著「社会政策要論」(増訂版)、岸本英太郎著「社会政策論の根本問題」、  
経済評論 6 (5)、37—43、1951—05  
時間外労働と賃金形態、労働問題研究 (49)、1—17、1950—12  
最低賃金制と社会保険、経済評論 5 (7)、23—35、1950—07  
Maurice Dobb: Wages Londn、1948、三田学会雑誌 43 (5)、74—79、1950—05  
重商主義・解体期における科学賃銀理論の諸萌芽——賃銀学説史序説、三田学会  
雑誌 43 (2)、26—39、1950—02

▽黒川俊雄の主な論文

---

現下失業問題の基礎的考察、労働評論 4 (12)、19—22、1949—11

職階給制度の本質と賃金理論——藤本武氏に対する一批判、労働問題研究 (36)、  
36—47、1949—10

労働力の価値理論と賃金理論、経済評論 4 (10)、13—25、1949—10

重商主義・解体期における科学賃銀理論の諸萌芽——賃銀学説史序説、三田学会  
雑誌 42 (2)、37—52、1949—02

英国近代社会の生成と賃銀理論——賃銀学説史序説、三田学会雑誌 42 (1)、32—  
55、1949—01

山中篤太郎教授「中小工業の本質と展開」——国民経済構造矛盾の研究、三田学  
会雑誌 41 (11・12)、96—102、1948—12